

安全データシート

本記載内容は当社が作成した現時点での入手できた情報・資料を基に作成しています。

含有量や物理的性質、化学的性質、危険性、有害性に関していかなる保証をするものではありません。注意内容は、通常一般的な取扱いにおける事象をもとに、その対象として作成されたものであり、特殊な取扱いや特殊な用法・用途に用いる場合には、専門家に聞くなどして適切な管理・使用をしてください。

1. 化学物質等及び会社情報

製品名：最上部に記載

会社名：抗菌美装株式会社 長野県飯田市中村 1 7 5 8 番地 2

電 話：0 2 6 5 - 2 8 - 2 0 0 0

2. 物質の特性

成分及び含有量：ジクロロイソシアヌル酸ナトリウム 含有量は **99%**以上
有効塩素濃度 **60%**

3. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学特性 爆発物：分類対象外
可燃性／引火性ガス：分類対象外
可燃性／引火性エアゾール：分類対象外
支燃性／酸化性ガス：分類対象外
高压ガス：分類対象外
引火性液体：分類対象外
可燃性固体：分類対象外
自己反応性化学品：分類対象外
自然発火性液体：分類対象外
自然発火性固体：分類対象外
水反応可燃性化学品：分類対象外
酸化性液体：分類対象外
酸化性固体：区分 2
有機過酸化物：分類対象外
金属腐食性化学品：分類対象外

健康に対する有害性

- 急性毒性（経口）：区分 4
- 急性毒性（経皮）：分類対象外
- 急性毒性（吸入：気体）：分類対象外
- 急性毒性（吸入：蒸気）：分類対象外
- 急性毒性（吸入：粉塵）：分類対象外
- 急性毒性（吸入：ミスト）：分類対象外
- 皮膚腐食性／刺激性：区分 2
- 眼に対する重篤な損傷／眼刺激性：区分 2A
- 呼吸器感作性：分類対象外
- 皮膚感作性：分類対象外
- 生殖細胞変異原性：分類対象外
- 発がん性：分類対象外
- 生殖毒性：分類対象外
- 特定標的毒性：単回暴露：分類対象外
- 特定標的臓器毒性：反復曝露：分類対象外
- 吸引性呼吸器有害性：分類対象外

環境に対する有害性

- 水生環境有害性（急性）：急性区分 1
- 水生環境有害性（慢性）：慢性区分 1
- オゾン層への有害性：分類対象外

GHS ラベル要素

シンボル表示



注意喚起語：危険

危険有害性情報：火災：火災助長のおそれ：酸化性物質

：健康：飲み込むと有害／皮膚刺激／強い眼刺激性

：動物：長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性

安全対策

- 1) 熱、火花、裸火、高温のもののような着火元から遠ざけること
- 2) 衣類、可燃物、油脂、水、酸、アルカリ、脱塩素剤（亜硫酸 Na、チオ硫酸 Na）、他の塩素系薬剤（次亜塩素酸 Na、次亜塩素酸 Ca、二酸化塩素）、金属から遠ざけること。
- 3) 可燃物と混合を回避するために予防策を講じること。
- 4) 保護手袋、保護眼鏡、保護面、その他保護衣を着用すること。
- 5) 取扱後は手や眼をよく洗うこと。
- 6) 取り扱い時に飲食、喫煙をしないこと。
- 7) 環境へ放出しないこと。

応急措置

- 1) 火災の場合：多量の注水により消火すること。一般粉末消火剤は使用しない。
- 2) 飲み込んだ場合：口をすすぐ。気分が悪いときは医師に連絡すること。
- 3) 皮膚付着の場合：多量の水と石けんで洗う。刺激があるときは、医師の手当てを受ける。
- 4) 眼に入った場合：数分程度水ですすぐ。コンタクトは外す。その後も洗浄を続ける。刺激があるときは医師の手当てを受ける。
- 5) 吸入した場合：新鮮な空気の場所で、安静に休息させる。気分が悪いときは医師の手当てを受ける。
- 6) 漏出物は回収すること。

保管

：保管期限を守ること。保管期限を過ぎた場合には適切に廃棄すること。

廃棄

：内容物および容器等は、都道府県市町村の法令規則に沿って廃棄すること。

4. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：化学物質

化学名：ジクロロイソシアヌル酸ナトリウム

CAS 番号：2893-78-9 化学式：C₃ Cl₂ N₃ O₃ Na 濃度 99%以上

化審法番号：5-1043 安衛法番号：なし

5. 応急処置

皮膚に付着した場合：多量の水と石けんで洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合には医師の手当てを受ける。

汚染された衣類を再利用するときは洗濯をすること。

眼に入った場合：直ちに水で数分間注意深く洗う。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。眼の刺激が続く場合は医師の手当てを受ける。

吸入した場合：新鮮な空気の場所に被災者を移動させ、安静に横向きに寝かせる。気分が悪い場合は、医師の手当てを受ける。

飲み込んだ場合：口をすすぐ。気分が悪い場合は医師の手当てを受ける。無理に吐かせない。

医師への伝達事項：本データシート情報。

6. 火災時の措置

使用する消火剤：大量の水

不適な消火剤：一般粉末消火剤

効果の無い消火剤：二酸化炭素消火剤、ハロゲン化物消火剤

特定危険有害性：塩素、塩化水素、三塩化窒素、酸化窒素、一酸化炭素、二酸化炭素、窒素のガスを発生させる

消火を行う者の保護具：空気呼吸器、保護手袋、保護眼鏡、化学用保護具、ホースマスク

7. 漏出時の措置

人体に対する注意事項：適切な保護具を用い、皮膚接触、眼接触、吸込みを防止する。

：区画するなど関係者以外の立入りを禁じ、遠ざける

：密閉空間の換気を行い高濃度での暴露を避ける。換気先も注意する。

環境に対する注意事項：環境への放出をしないこと。

：河川への流出をさけること。

漏洩物の除去方法：ホウキなどでかき集め、完全密閉しない肉厚のプラスチック容器に入れ、水気のかからない屋外で一時保管し、専門業者に廃棄を依頼する。

：中和等処理の専門家に依頼する。専門の廃棄物処理業者に依頼する。

二次災害の防止策：回収した漏出物や水濡れした漏出物は「廃棄上の注意」を参照する。

：漏洩物と可燃物を隔離する。容器内に水を入れない。

8. 取り扱い及び保管上の注意

忌避する条件：高温、多湿、火気、水、酸、アルカリ、脱塩素剤（亜硫酸 Na、チオ硫酸 Na）、他の塩素系薬剤（次亜塩素酸 Na、次亜塩素酸 Ca、二酸化塩素）、金属から遠ざけること
技術的対策：局所排気装置、全体換気装置を備えた場所で取り扱う。

- ：適切な保護具（手袋、マスク、着衣）を使用する。
- ：不安定な場所で取り扱わないこと、保管しないこと。

保管

- ：容器を密閉し、水や熱、直射日光を避け、風通しの良い冷暗所に保管する。
- ：上記の「忌避する条件」を備えること。
- ：保管条件により容器が破損し、中身やガス等が漏洩することがある。肉厚の樹脂等の保管容器に適切に移し替えるか、こまめに容器を見て、腐食漏洩なきことを確認する。
- ：ポリエチレン（PE）、ペット樹脂（PET）、ポリプロピレン（PP）などの樹脂保管容器が望ましい。条件によるが、樹脂といえど5年以上の長期保管には適さない。
- ：保管期限内に使い切り、保管期限を過ぎた場合には適切に廃棄する。
- ：子どもや高齢者等の手の届かないところに保管する。

9. 暴露防止及び保護措置

設備対策：装置を密閉化し、局所排気装置、全体排気装置を用いる。

厚生労働省：管理濃度：設定されていない。

塩素ガスとしては、0.5ppm（1995年3月27日労働省告示第26号）

：許容濃度：設定されていない

塩素ガスとしては、0.5ppm, 1.5mg/m³（2005年日本産業衛生学会）

保護具：保護マスク、保護眼鏡、保護手袋（ゴム・塩化ビニルなどの不浸透性のもの）、保護着（材質を特定しないが長袖、長ズボン、長靴）

10. 物理的及び化学的性質

外観など：白色の顆粒もしくは粉末

臭い：塩素の刺激臭

pH：6～7。1%水溶液（10000ppm）のとき約6.6。0.1%水溶液（1000ppm）のとき約6.4。

沸点：情報無し

融点：融点無し

凝固点：常温で凝固

溶解度：水 100g に対し約 25g 溶解する。（25℃）

引火点：なし

自然発火温度：なし

分解温度：240℃～250℃

酸化性：酸化性を有する。

1 1. 安定性及び反応性

安定性・反応性：乾燥状態では安定している。水に溶解すると次亜塩素酸を生じる。

忌避物質：水、酸、アルカリ、脱塩素剤（亜硫酸 Na、チオ硫酸 Na）、他の塩素系薬剤（次亜塩素酸 Na、次亜塩素酸 Ca、二酸化塩素）、金属。

分解時生成物：塩素、塩化水素、三塩化窒素、酸化窒素、一酸化炭素、二酸化炭素、窒素。

忌避条件：火気、熱、衝撃、摩擦、直射日光、水、湿度

1 2. 有害性情報

急性経口毒性：ラット LD50：1600mg/kg 以上

急性経皮毒性：ラット LD50：5000mg/kg 以上

急性吸入毒性：ラット LC50：12mg/kg 以上

眼刺激性：ウサギ 中程度～重度の刺激性

呼吸器感作性又は皮膚感作性：情報なし

生殖細胞変異原性：情報なし

発がん性：情報なし

生殖毒性：情報なし

特定標的臓器毒性（単回暴露）：情報なし

特定標的臓器毒性（反復暴露）：情報なし

吸引性呼吸器有害性：情報なし

その他の情報：情報なし

1 3. 環境影響情報

生分解性：水中で徐々に分解する。

急性魚毒性：水生生物に有毒である。0.01mg/L であっても有害である。

生体蓄積性：イソシアヌル酸の蓄積性なし

オゾン層への有害性：情報なし

1 4. 廃棄上の注意

原体および廃液の中和方法：大量の水に溶解し、塩素中和剤（脱塩素剤）により残留塩素を中和する。その後、アルカリ剤で中和し排水する。

直接河川に廃棄したり、土壌に埋めてはならない。

原体および廃液の廃棄方法：都道府縣市町村の法令規則に則り、適切に廃棄する。

残容器：都道府縣市町村の法令規則に則り、適切に廃棄する。

1 5. 輸送上の注意

国際規則

国連番号：UN2465

品名：ジクロロイソシアヌル酸塩類

国連分類：クラス 5.1 酸化性物質類酸化性物質

容器等級：II

海洋汚染物質：該当

国内規制

陸上規制情報：非該当

海上規制情報：船舶安全法：該当：酸化性物質

航空規制情報：航空法：該当：酸化性物質

輸送上の注意事項：輸送中の取り扱いは慎重に行い、転倒、落下、損傷、衝撃なきように取扱う。

水濡れ、火気、熱、直射日光を避け、酸、アルカリ、塩素剤、脱塩素剤、油脂、可燃物と接触させない。

1 6. 適用法令

毒物及び劇物取締法：非該当

消防法：非該当

労働安全衛生法 通知対象物：非該当

化学物質管理促進法：非該当

化学物質排出把握管理促進法：非該当

船舶安全法：酸化性物質（危規則第 3 条危険物告示別表第 1）

航空法：酸化性物質（施行規則第 194 条危険物告示別表第 1）

化審法：優先評価化学物質

1 7. 記載内容の問い合わせ先

抗菌美装株式会社 TEL 0265-28-2000 FAX 0265-28-2011

引用文献 1. IUCLID 2. BIOWIN 3.OECD SIDS initial assessment report1999 4.AQUIRE2010
5. Ad Hoc Committee,EPA report2003